キャンドルのある暮らし

はじめての
クリームソーダキャンドル

見た目もかわいい！
パラフィンワックスでつくる
クリームソーダキャンドル



Cream Soda Candle

キャンドルのある暮らし
https://www.life-candle.shop/

1 完成イメージ



こんなキャンドルが作れます



カラフルなゼリーのような
ジェルキャンドルに、
アイスクリームのキャンドルをのせて
かわいいクリームソーダを作ります。

難易度	制作時間	完成サイズの目安
☆★☆ （初心者向け）	約1〜2時間 （冷却時間を含む）	高さ 約10〜12cm （グラスにより異なります）

クリームソーダキャンドルの特徴

- 透明感のあるジェルで、爽やかなソーダの表現ができます。
- アイスクリームはパラフィンワックスで、本物そっくりに。
- 色やトッピングを変えて、オリジナルのアレンジが楽しめます。

2 用意する材料・道具

材料（1個分の目安）



ジェルワックス
約 150〜200g
（グラスの大きさによる）



パラフィンワックス
約 50g
（アイス部分用）



キャンドル専用顔料または染料
（グリーン・ブルーなど）



フレグランスオイル
（お好みで）



キャンドル用の糸芯
1本



座金
1個



座金固定シール
1枚



トッピング用
（さくらんぼ・ストローなど）

道具



ワックスを溶かす鍋
（片手鍋・注ぎ口付き）



デジタル温度計
（クッキング温度計）



IHヒーター



デジタルスケール
（湯量計も使用可）



耐熱容器
（計量・着色用）



グラス
（耐熱のもの）



かき混ぜ棒



はさみ



耐熱手袋

3 アイスクリームキャンドルを作る（パラフィンワックス）

1 ワックスを溶かす



70〜80℃を目安に

アイスクリームはお好みの色で作りましょう！



鍋にパラフィンワックスを入れ、
IHヒーターで加熱して溶かします。

2 着色して混ぜる



少量の顔料や染料で、
やさしい色のアイスクリームの
色を作ります。

3 丸く形を作る



ワックスが少し冷めて
とろみがついたら、
アイスクリームの形にします。
（アイス用ディッシャーや
スプーンでもOK）

4 冷やして固める



形を整えたら、
完全に冷やして固めます。
（目安：30分〜1時間）

4 グラスのジェルキャンドルを作る

1 ジェルワックスを溶かす



90〜110℃を
目安に

ソーダの色は
グリーン・ブルー・ピンクなど
お好きな色で！

鍋にジェルワックスを入れ、
IHヒーターで加熱して溶かします。
（製品の推奨温度に従ってください）

2 色をつける



耐熱容器に少量ずつ取り分け、
お好みの色の顔料や染料で
着色します。

3 氷に見立てたジェルを作る（透明）



透明のジェルを少量取り分け、
製氷皿などに流し入れて
冷やし、氷の結晶に似たパーツを作ります。
（なくてもOKです）

5 グラスに注いで仕上げる

1 糸芯をセットする



糸芯に座金を通し、
ペンチでしっかり
固定します。



座金固定シールを
グラスの底の中央に
貼り、座金を固定します。



上部は割りばしなどで
芯を固定します。

2 透明のジェルを少し注ぐ



グラスの底に
1〜2cm程度
注ぎ、糸芯が動かない
ようにします。



4 色付きのジェルを注ぐ



着色したジェルをゆっくりと
注ぎます。気泡が入った場合は、
少し置くと自然に抜けます。

6 アイスをのせて完成

1 ジェルを冷やす



室温でしっかり冷やし、
完全に固めます。
（目安：1〜2時間）

2 アイスをのせる



固まったジェルの上に、
アイスクリームキャンドルを
のせます。

3 トッピングを飾る

さくらんぼやストローなどを
飾って完成です。

※さくらんぼはキャンドル専用のものや、ワックスで作ったものを使用してください。



7 よくある失敗と対処法

気泡が入ってしまう



注ぐ温度が高すぎると気泡が入りやすくなります。
少し冷ましてから注ぎ、静かに流し入れましょう。

アイスが沈んでしまう



グラスの中のジェルがまだ柔らかい状態でのせると沈んでしまいます。
しっかり固めてからのせましょう。

表面がへこむ



冷却を入れこぎがで寄ることがあります。
注いでや加えて、棉子を見主がら調整しましょう。

8 安全上の注意



熱いワックスでやけどしない

加熱したワックスや容器は非常に高温です。
取り扱いに注意してください。



加熱しすぎない

温度は熱品の
[illegible]
温度計で必ず確認しましょう。



水を入れない

水が入るとワックスがはねて危険です。
容器・温度は必ず自分から
乾いたものを使用してください。



お子さまだけで作業しない

必ず大人の方と一緒に作業してください。



作業中は換気する

ニカイや気がこもらないように、換気しながら作業しましょう。



火を灯すときの注意

安定した場所で使用し、
燃えやすいものの近くでは
使用しないでください。